

東京都小中学校環境教育研究会会報

東京の青い空

第72号

会 長 箱崎 高之 調布市立上ノ原小学校 TEL 042-485-1271

事務局長 伊藤 修久 世田谷区立玉堤小学校 TEL 03-3521-1164

HP <http://kankyokyoiku.jp>

Think Globally, Act Locally

東京都小中学校環境教育研究会長
調布市立上ノ原小学校長 箱崎 高之

「今年の夏は、暑かった。」誰もが感じたことではないでしょうか。実際、東京都心の真夏日は、過去最多の71日を大幅に更新する90日に達しました。また、2023年7～9月の世界の月毎の平均気温が観測史上最高となったことから、今まで定着していた「地球温暖化」ではなく、もはや「地球沸騰化」であるとの言葉も生まれました。

このような気候危機が一層深刻化する中、世界は、2050年CO₂排出実質ゼロという共通のゴールに向けて、急速に歩みを進めています。東京都は、2050年ゼロエミッションの実現に向けては、2030年までの行動が極めて重要であるとし、2030年までに温室効果ガス排出量を50%削減（2000年比）する、「カーボンハーフ」を表明するとともに、この実現に向けて、2019年に策定・公表した「ゼロエミッション東京戦略」をアップデートし、取組を加速させています。また、東京都教育庁は、幼児・児童・生徒が、「脱炭素」という世界共通のゴールに向けて、自然環境や地域、地球規模の諸課題について理解を深め、自分ができようことを考えて具体的に行動できるよう、環境教育の課題や、国や都の先進事例、先進的な取組を行う学校の指導実践を共有し、指導の改善・充実を図ること目的とした「カーボンハーフスタイル推進教育フォーラム」を開催し、都内すべての公立小・中学校から教員が参加しました。2030年まであと7年。それは、小学1年生が中学校を卒業するまでの年月よりも短いものです。小学校・中学校における持続可能な社会の構築を目指す環境教育の必要性・重要性が一層高まっています。

さて、本研究会は1964年に創立し今年度59年目を迎えます。その間、公害対策、環境教育、ESDと、それぞれの時代に合った研究内容を中心に研究と教育の普及に努めてきました。現代の環境に関わる課題として低炭素社会、生物多様性社会、

資源循環型社会づくりがあげられます。低炭素社会づくりは気候変動（地球温暖化）の問題です。野生生物の減少問題は生物多様性社会づくり、資源循環型社会づくりはマイクロプラスチック問題がこれにあたります。これらの課題にあった研究活動と共に様々な研修会を開催し、持続可能な社会づくりのための教育に取り組んでいます。

研究会の活動の一環として、この夏には「御岳山自然観察会」を行いました。御岳山ケーブルを降り、私たちの目に入ってきたものは、みずみずしく美しい緑の山々、ではなく茶色く枯れたおびただしい数の木々でした。いわゆる「ナラ枯れ」です。講師を務めていただいた自然ガイドの宮田浩さんによると、以前はもっと標高の高い山の中で見られたものが、現在は人が入るキャンプ場や公園の木々などで被害が目立ち始め、御岳山においても昨年まではこれほどの被害は見られなかったとのことでした。実際に被害にあっている木の根元を見ますと、大量の木くずが落ちています。これは、ナラ枯れの原因となっている「カシノナガキクイムシ」が樹木に穴をあけたときに出す木くずと糞が混ざったものです。被害調査のために木に巻かれたシートを見るとそこにはおびただしい数のカシノナガキクイムシが、その数、数百匹いや数千匹にもなるのでしょうか。このような衝撃的な状況を実際に目にしますと、身近な環境問題から地球規模への環境問題について思いを馳せずにはられません。

教育は子供たちと社会の未来のためにあります。そして私たち教員は、教育によって持続可能な社会づくりに関わることができます。地球の未来を担う子供たちが自然環境や地域、地球規模の諸課題について理解を深め、自分ができようことを考えて具体的に行動できるようになるために、持続可能な開発のための教育ESDやSDGsの学びに取り組みましょう。

ナラ枯れ対策



根元には木くずが



調査シートの中は、カシノナガキクイムシがびっしり



令和5年度東京都小中学校環境教育研究会総会報告

令和5年6月8日(木)、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、書面にて東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、令和4年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、令和5年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。

◆令和4年度事業報告

1 令和4年度総会 6月10日～27日 書面総会

2 研究部の活動の充実

(1) 研修会

- ・リサイクル研修会 令和4年8月2日
JFE スチール(株) など
- ・自然観察会 令和4年8月5日
御岳山及びその周辺
- ・夏季研修会 令和4年8月23日
味の素(株)・川崎工場
- ・動物園研修会 令和5年2月4日
井の頭自然文化園

(2) 授業実践と事例報告

3 全国小中学校環境教育研究会と連携 第54回全国小中学校環境教育研究大会 (第58回東京都小中学校環境教育研究会発表会と共催) 令和5年1月28日 オンライン開催

講演 「アフターコロナの自然共生社会」
講師：国立環境研究所 生態リスク評価・
対策研究室 室長 五箇 公一 氏

4. 会報「東京の青い空」第70・71号発行

◆令和4年度決算報告

1 収入

項 目	予算額	決算額	適用
繰越金	1,698,310	1,698,310	R3 年度繰越
分担金	850,000	876,000	1校1000円等
研究奨励費	160,000	200,000	弘済会研究助成奨励金
研究助成金	198,000	198,000	東京都研究助成金
利 息	0	16	2回分
計	2,906,310	2,972,326	

2 支出

項 目	予算額	決算額	適用
総会費	40,000	0	書面開催のため
会場費	70,000	40,000	研究会会場費
事務費	30,000	2,757	事務経費
研究費	700,000	15,000	環境学会会費
講演会費	300,000	98,240	講師謝礼
見学費	60,000	22,000	交通費補助
印刷広報費	300,000	158,686	機関誌代
通信費	50,000	17,523	送料代
全国大会費	300,000	575,000	全国大会紀要、運営補助
発表会費	348,000	150,000	運営費
予備費	708,310	0	
計	2,906,310	1,079,206	

差引残高 1,893,120 円は、次年度に繰り越します。

3 会計監査報告

上記の決算について監査により相違ないことを認めます。

令和5年6月8日

会計監査

東京都教職員研修センター 國分 重隆
府中市立教育センター 野澤 由美

令和5年6月8日(木)、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、書面にて東京都小中学校環境教育研究会総会を開催しました。議事として、令和4年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新役員承認、令和5年度事業計画案、予算案、研究計画案について審議し承認されました。

◆令和5年度事業計画

1 令和5年度総会

令和5年6月8日～21日 書面総会

2 研究部の活動の充実

(1) 研修会

- ・自然観察会

令和5年8月4日 御岳山

- ・夏季研修会(エネルギー研修会)

令和5年8月7日

J-POWER横浜・磯子石炭火力発電所

- ・夏季研修会(スチール缶リサイクル協会工場見学会)

令和5年8月8日

さいたま市桜環境センター・東洋製缶埼玉工場

- ・夏季研修会(東京都環境公社主催環境教育研修会)

令和5年8月9日 WEB開催

- ・野鳥観察会

令和6年1月 未定

(2) 授業実践と事例報告

3 全国小中学校環境教育研究会との連携

- ・第55回全国小中学校環境教育研究大会

(第59回東京都環境教育研究発表会と共催)

令和6年1月26日(金) 13:30～16:30

エコルとごし(品川区立環境学習交流施設)

講演「気候危機にどう向き合うか」参加者とのディスカッションを交えて～

講師：東京大学 未来ビジョン研究センター 教授

国立環境研究所 地球システム領域 上級主席研究員 江守 正多氏

4. 会報「東京の青い空」第72・73号発行

◆令和5年度予算

1. 収入

項目	予算額	適用
繰越金	1,893,120	R4 年度繰越金
分担金	850,000	分担金1校1,000円等
研究奨励費	0	
利息	0	
計	2,743,120	

2. 支出

項目	予算額	適用
総会費	10,000	総会要項印刷等
会場費	90,000	定例役員会、研究部会、研究員発表会費
事務費	48,000	事務経費

研究費	320,000	集録作成、研究資料費、環境教育学会会費、夏季研修費
講演会費	320,000	講師謝礼
見学費	280,000	研修会見学費、交通費補助
印刷・広報費	220,000	「東京の青い空」・WEB更新費 ホームページ更新料
通信費	70,000	通信 送料等
コンクール経費	300,000	コンクールにかかる諸経費
全国大会費	520,000	全国大会紀要作成補助 運営補助等
発表会費	170,000	全国大会研究会補助費
予備費	395,120	
計	2,743,120	

◆令和5年度役員

役職	氏名	学校名	役職
顧問	竹田 雄二郎	青梅市立第四小学校	副校長補佐 (元校長)
	棚橋 乾	元多摩市立連光寺小学校	元校長
	藤森 克彦	元品川区立大井第一小学校	校長
会長	箱崎 高之	調布市立上ノ原小学校	校長
副会長	關口 寿也	多摩市立連光寺小学校	校長
	伊勢 明子	杉並区立高井戸小学校	校長
事務局	事務局長	伊藤 修久	世田谷区立玉堤小学校 校長
	次長	福井 みどり	板橋区立志村第三小学校 校長
	次長	棗 まゆみ	渋谷区立常盤松小学校 副校長
研究・広報部	部長	鈴木 元	町田市立ゆくのき学園(小中一貫) 校長
	副部長	佐藤 弘典	世田谷区立城山小学校 校長
	副部長	井田 孝	港区立芝浦小学校 校長
研修部	部長	天野 拓二	多摩市立鶴牧中学校 副校長
	副部長	森田 哲生	青梅市立第七小学校 校長
	副部長	田中 新一	三鷹市立(おおさわ学園)羽沢小学校 副校長
会計部	部長	鈴木 朝代	杉並区立西田小学校 校長
	副部長	坂野 真貴子	多摩市立多摩第三小学校 校長
	会計指南	鯨坂 映子	町田市立鶴川第三小学校 校長
会計監査	棚橋 乾	元多摩市立連光寺小学校	元校長
	藤森 克彦	品川区立大井第一小学校	校長
OB 役員	富田 広	多摩教育事務所指導課	指導専門員
	杉本 茂雄	元中央区立阪本小学校	元役員
	宮原 元	品川区教育委員会学校地域連携係	コーディネーター
	末吉 潤一	元江戸川区立西小岩小学校	元校長
	邊見 公子	杉並区立就学前教育支援センター	非常勤
	阿閉 暢子	元多摩市立愛和小学校	元校長
	國分 重隆	東京都教職員研修センター	教授
	野澤 由美	府中市立教育センター	指導員
	佐々木智津子	元中野区立鷺ノ宮小学校	元副校長
	石塚 裕幸	元足立区立興本扇学園	元副校長

夏季研修会報告①

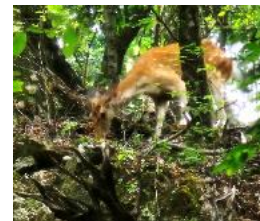
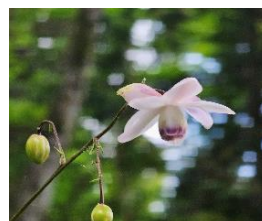
御岳山自然観察会

～東京の山間部に生息する哺乳類からのメッセージ～

青梅市立第七小学校 校長 森田 哲生

8月4日(金)に青梅市の御岳山で自然観察会を実施しました。今年も募集してすぐに定員に達してしまった人気の観察会です。昨年度に引き続き、元御岳ビジターセンター解説員であり、現在は「東京の川と森」をフィールドに自然ガイドとして活動されている宮田 浩 先生を講師に迎え、～東京の山間部に生息する哺乳類からのメッセージ～というテーマで、御岳の自然環境について学びました。ムササビの生活から見える森林の多様性の意義、ここ数年御岳山で目撃が多発しているニホンカモシカとニホンジカの生息状況の違い、地域の植生の変化などを題材として、フィールドワークを中心にSDGsの目標15である「陸の豊かさを守ろう」について考えました。

食害により減りゆくレンゲショウマや予想以上に進行している「ナラ枯れ」の状況を目の当たりにして、同じ青梅の学校に勤務している者として、子供たちへの環境教育の重要性を痛感しました。また、途中で講師の宮田先生に導かれたかのように現れたニホンジカとの出会いや宿坊の方との交流もあり、大変充実した研修会となりました。



夏季研修会報告②

スチール缶製缶工場・リサイクル見学会

～さいたま市桜環境センター、東洋製罐(株)埼玉工場 見学～

多摩市立鶴牧中学校 副校長 天野 拓二

夏真っ盛りの8月8日(火)、スチール缶リサイクル協会・日本製缶協会・(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会主催、(株)教育家庭新聞社協力、東京都小中学校環境教育研究会後援の「スチール缶製缶工場・リサイクル見学会」を実施しました。当日は教職員19名が参加し、リサイクルの意義、スチール缶の特徴などを学びました。まず、午前中に向かったのは、さいたま市の桜環境センターです。この桜環境センターはごみ・資源の処理施設であり、1日あたり、ごみ収集車180台分のごみが集まります。ごみ処理の際に発生する熱エネルギーを利用した発電を行っており、センター内で利用するなど、電気の地産地消、効率的なエネルギーの循環を実現しています。また処理後に発生するスラグやメタルなども再利用されています。また、この桜環境センターには処理熱を利用した大浴場やプールなど、地域住民が利用できる複合施設を併設しており、これまでごみの処理施設というどちらかといえばマイナスなイメージがある施設を逆に市民の方々から喜ばれる施設に変えている点など、環境問題の意識を高めることも含め、大変興味深く、新たな視点を感じた良い経験となりました。午後には東洋製罐(株)埼玉工場を見学しました。この工場は1971年に設立された飲料容器専門の工場です。今回はその中でも最新の技術の詰まったスチール缶の製造現場を見ることが出来ました。製造方法の工夫や技術を高めることで環境問題に対応した工場となっています。

こうした身近にあるものに触れることで、改めて環境問題について考えるきっかけとなっただけではなく、製品の品質についての私たち消費者の意識と企業努力とのバランスをとることの必要性を感じました。

今回、この2つの施設を実体験として見学できたことは、子供に伝えることはもちろん、私たち自身が、子供達が希望をもって生きていける環境を作り、守っていくという使命をもち、決して諦めることなく行動していかなければならないことを改めて感じた時間となりました。考えるだけでなく行動すること、残された時間は決して多くはありません。

夏季研修会報告③

東京都環境局主催・小学校教員向け環境教育研修会

「今さら聞けない SDGs～学校の中での推進～」

全国小中学校環境教育研究会 会長

東京都多摩市立連光寺小学校 校長 関口 寿也

東京都環境局が毎年夏季に企画している小学校教員向け環境教育研修会「やってみよう！環境教育プログラム」の全5回の講座のうち、第4回目の講座を全国小中学校環境教育研究会の会長、研究部長、研究員の3名で担当しました。今回はオンライン研修の形をとり、「今さら聞けない SDGs～学校の中での推進～」と題し、学校教育活動の中にSDGsの視点をどのように生かしていけばよいのかという内容として、24名の参加申し込みを受け開催されました。

研修会前半は講義、後半は参加者間でのディスカッションを行いました。講義では、SDGsの背景、温暖化の現状、SDGsを達成するために不可欠なESDの推進方法、全国の実践や東京都小中学校環境教育研究会研究部が味の素(株)と協業した学習プログラムの実践を紹介しました。講義の後の後半のディスカッションは本講座のメインとなるものです。参加者は3グループに分かれ、自己紹介と勤務校で課題となっていることを挙げてもらいました。「SDGsに取り組まなければいけないと思うのだけれど、どう考えたらよいのか」「校内の教員間の合意形成をしたい」等の声が多く挙がりました。

その中で見えてきたこととして、教育活動の中でSDGsに取り組む上で大切なことは、SDGsを学ぶということではないということです。日々の教育活動の中で行っている環境教育によって得た価値観や知見が、SDGsとどう繋がっていくのかをクリアにすることが肝心です。SDGsはGoalなのです。私たちが日々の暮らしで思い、考え、僅かであっても実践していることが結果としてSDGsに続いていくことを意識させていくことこそが、自己有用感や自己肯定感を育てることに繋がり、未来の地球を創造する希望の光となるはずです。環境教育、ESDは、そのために学校教育に不可欠なものであると参加者が改めて実感することができた研修会となりました。研修会での学びを自校の教育実践に生かすことができるよう願ってやみません。

令和5年度東京都小中学校環境教育研究会研究主題
持続可能な社会づくりのための環境教育の推進
～環境教育によって育む学力と環境保全意欲～

1 主題設定の理由

私たち東京都小中学校環境教育研究会は、この合言葉を強く胸に抱き、2100年を生きる子供たちへの持続可能な社会づくりというパラダイムシフトを進めていく人材を育成していく使命がある。これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にする希望であり手段となりうると信じて止まない。新しい環境教育(ESD)におけるねらいの設定、授業デザイン、指導方法などについてさらに広く深く確信をもって研究を進め、指導者側の意識転換と、児童・生徒の変容を図っていく。

2 研究の内容 今年度のテーマは、「地球温暖化防止について考えさせる授業」

《理論構成》

- (1) これまでに実施されている環境教育やESDの優良事例を分析し、環境教育やESDを推進するための学校経営や授業の在り方について検討する。
- (2) 幼稚園・小学校・中学校の発達段階に応じた、学習活動のねらいや方法を研究する。

《実践研究》

- (1) 「新しい環境教育」の3つの能力・態度をもとにした実践を行う。
- (2) 環境教育やESDによる自己の変容について研究を深める。児童・生徒が自らの思いや考えを明確に意識し、その変容を捉えることができるように、ポートフォリオやイメージマップ等を取り入れた学習方法とその評価方法に関する研究を深める。
- (3) これまで研究してきた100年後の天気を活用し、さらに地球温暖化を自分事として捉えさせるような授業の構築を行う。また、小学校・中学校ともに授業デザインを行う。

第55回全国小中学校環境教育研究大会 第59回東京都小中学校環境教育研究発表会 【対面・オンライン同時開催】

《研究主題》 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進
環境教育によって育む学力と環境保全意識

【日 時】 令和6年1月26日（金） 13時30分～16時45分

場所 エコルとごし 東京都品川区豊町2-1-30

オンライン開催（期間限定録画配信 1月26日～2月3日）

【時 程】 13:30 13:40 14:40 14:50 15:00 16:30 16:45

開会式	研究発表	講評	休憩	講演	閉会式
-----	------	----	----	----	-----

【講演】「気候危機にどう向き合うか」～参加者とのディスカッションを交えて～

講師 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授

国立環境研究所 地球システム領域 上級主席研究員 江守 正多 氏

☆講師プロフィール☆

1970年神奈川県生まれ。

東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。

博士(学術)。

1997年より国立環境研究所に勤務。地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長等を経て、2021年より地球システム領域副領域長。連携推進部社会対話・協働推進室長を兼務。

2021年より東京大学総合文化研究科広域科学専攻客員教授。

2022年より地球システム領域上級主席研究員、東京大学未来ビジョン研究センター教授(クロスアポイントメント)。専門は気候科学。気候変動に関する政府間パネル第5次、第6次評価報告書主執筆者。



【参加費】 2,000円(資料代) ただし、全国会員は無料

【主催】 全国小中学校環境教育研究会 <<http://kankyokyoiku.jp/>>
東京都小中学校環境教育研究会 <<http://kankyokyoiku.jp/tokyo/>>

【後援】 文部科学省 環境省 東京都教育委員会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会
東京都公立小学校長会 品川区教育委員会 東京都中学校長会
日本教育公務員弘済会東京支部 日本ESD学会
日本環境教育学会 ESD活動支援センター 関東地方ESD活動支援センター

【申し込み】

本会ホームページからお申し込みください。

全国小中学校環境教育研究会ホームページ <http://kankyokyoiku.jp/>



大会事務局 世田谷区立城山小学校 校長 佐藤 弘典
TEL 03-3429-2062 FAX 03-3429-2049
E-mail kou031@setagaya.ed.jp